

子どもたちの意欲を高める評価方法の工夫

～達成感もてる評価方法の実践を通して～

I 主題設定の理由

昨年度、学習感想やわくわくボードなどの方法は、教育的効果があることが確認された。ただ、算数科と国語科の実践で、部会ごとの取り組みであったため、全職員への広がりが見られなかった。そこで、本年度は、子どもたちの学習意欲を高めるための評価方法について、昨年度の実践をふまえ、算数科、国語科はもちろん他の時間でも実践できたらと考える。子どもたち一人一人が学習の達成感を感じ、より意欲的に取り組めるような方法で、日々実践できる方法にさらに取り組んでいきたいと考える。言葉がけ、ノート指導、自己評価、相互評価など日々行っている評価にも目を向け、学習してよかった、次も頑張ろうという意欲につながる評価方法の実践を積み重ねていきたい。子どもたちにとってよりよい評価方法の工夫に取り組むことにより、子どもたちの学習する意欲はさらに高まっていくと考えられる。また、今年度は、意欲を支えるという点で、子どもたちの基本的な生活について調査していきたい。身体面、生活面での各学年の課題を明らかにし、より健康的に過ごせるような授業や取り組みをできる限り考えていきたい。毎日の規則正しく健康的な生活は、落ち着いて意欲的に活動するためにも大切なことだと考える。以上のような理由でこの主題を設定した。

II 研究仮説

学習指導において、達成感を持てるような評価方法の工夫をすることにより、児童の学習への意欲は高まるであろう。

III 研究の具体的な内容と方法について

1 研究の具体的な内容

- (1) 学習会
- (2) 評価を工夫した授業実践
- (3) 児童の生活に関する調査
- (4) 児童の生活の調査を生かした取り組み

2 研究の具体的な方法

- (1) 講師を招き学習会を行う。
- (2) 評価方法の工夫を取り入れた授業を実践する。
- (3) 児童の生活調査を作成し、実施する。
- (4) 児童の生活の調査結果を集計し、結果を生かした取り組みを考える。

IV 研究実践

1 学習会

- (1) 「書く力について・新学習指導要領について」 講師：指導主事 保坂 伸 先生
(2) 「子どもたちの生活基盤の確立に向けて」 講師：指導主事 寫本 三夫先生

2 検証授業

- (1) 第2学年 算数科授業実践「形に名前をつけよう」 授業者 宮沢 弘美
(2) 第4学年2組算数科授業実践「およその数で表そう」 授業者 畠山 忠

3 実践

- 第1学年1組算数科授業実践「かたちあそび」 授業者 鈴木奈津美
○第1学年2組算数科授業実践「ひきざん」 授業者 小幡 香織
○第3学年 算数科授業実践「長方形と正方形」 授業者 小川真知子
○第4学年1組算数科授業実践「わり算の筆算を考えよう」 授業者 武井 美香
○第5学年 算数科授業実践「図形の角のひみつを調べよう」 授業者 渡邊 尚英
○第6学年 算数科授業実践「割合の表し方を考えよう」 授業者 飯島 裕明
○児童の生活実態を生かした指導資料の提供

V 成果と課題

1 成果

- ・算数科における評価の工夫という点で、「学習感想」の具体的な取り組みがあったことはよかった。低学年では、学習感想に段階を設け、児童が書くときの視点になったり、次への目標になった。高学年では、学習感想を一枚ポートフォリオにまとめ、さらに全体で交流できたので、お互いを認め合いながら学習し、自分がかんばってきた足跡を確認できて達成感につながっていった。いずれも児童にとって学習意欲が高まるものだったと実感でき、大きな成果だったと考える。
- ・取り組みの中で、児童が、学習の楽しさ、意欲、達成感等を実感でき、変容したことはよかった。
- ・達成感を持たせられる評価方法の工夫について意識して授業をし、一人一実践が達成できたことは、意味のある研究になったと思われる。

2 課題

- ・書く力の個人差があるので、自分の考えを文字に表す取り組みも必要である。
- ・学習感想・ポートフォリオ・学習カード等のチェックや一言にかかる時間が長くなると大変な面も出てくる。今年度はその点での工夫が見られたが、さらによい方法を探っていく必要もある。
- ・学習感想等をより有効に活用できるように、授業者が意識して取り組んでいきたい。
- ・算数科の実践が多く、他教科での実践がみられなかった。

VI 成果物

- 1 低学年ブロック 学習感想への取り組み（段階設定）、レベルアップカード
- 2 高学年ブロック 学習感想への取り組み、一枚ポートフォリオ
- 3 生活調査ブロック 児童の生活実態調査結果、指導資料（研究主任 武井美香）